

---

# コガメ と カエル

伽砂杜ともみ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

コガメ と カエル

### 【Nコード】

N8048D

### 【作者名】

伽砂杜ともみ

### 【あらすじ】

小さな池の、コガメとカエル。楽しいことは、なんだろう？ 知りたいものは、なんだろう？ いつかはでかく、なるために。完結済み。

広い公園の中に、小さな池がありました。

そこに、コガメとカエル。

そして、お魚がたくさん住んでいました。

コガメは『けること』が大好き。

公園で人間のこどもが、サッカーボールと一緒に遊んでいるのを、池からよく見ていました。

「大きくなったら サッカーボールになるんだ」

カエルは『動くこと』が大好き。

コガメと一緒に公園へ行っては、白と黒の、キレイで早く動くサッカーボールに、あこがれていました。

「大きくなったら サッカーボールになるんだ」

コガメとカエルは、とっても仲良し。

雨が水をたたく日に、フナのおじさんがコガメとカエルに、

「夢は あるかい？」

と、聞きました。

「大きくなったら サッカーボールになるの」

コガメとカエルは、元気よく答えます。

フナのおじさんは首をかしげて、もう一度、聞きました。

しかし、コガメとカエルの答えは変わりません。

「サッカーボールというものは けるもの なんだよ？」

フナのおじさんがそう言いますと、

「うん 知ってるよ」

コガメとカエルは、声を合わせて うなずきます。

フナのおじさんは困ったように口をまげ、池の深いほうへと、泳いでいってしまいました。

「フナのおじさん なにが言いたかったのかな？」

コガメはそう言って、首をかしげました。

「なにが言いたかったのかな？」

カエルもマネして、首をかしげました。

晴れた日に、コガメとカエルは池を出て、散歩することにしました。

ゆつくりと歩くコガメの周りを、ぴよんぴよんと元気よくはねるカエル。

「カエルくんは いいな。早く動けて。もうすぐ サッカーボールになれるのかな？」

カエルは、首を横にふりました。

「まだまだだよ。サッカーボールは、ずっと飛びはねたりしないもの」

コガメの背中にのぼり、カエルは言いました。

「コガメくんこそ 背中にサッカーボールのもようがあるね。もうすぐサッカーボールになれるのかな？」

しかし、コガメは首を横にふりました。

「まだまだ。サッカーボールのもようは五角形。ぼくのは 六角形なもの」

コガメとカエルは、人間のこどもたちに甲羅こうらをたたかれたり、足を引っばったりされましたが、なんとか、公園の外に出ることができました。

「ふう。だいぶ歩いたね」

コガメは、首を長くしてのびをしました。

カエルは疲れたようすもなく、高くはねています。

と、その時、コガメとカエルの頭の上を飛んでいくものがありました。

「あつ！ あれは、サッカーボールさん！」

コガメとカエルは、同時にさけびました。

キレイなサッカーボールが、道路で二、三回、はずみます。

「あぶないよ。車がくるよ！」

コガメとカエルは、なんども なんども呼びました。

けれども、サッカーボールは動きません。

「どうして 動かないのかな？」

「どうして 動かないんだろう？」

コガメとカエルは、不思議に思いました。

サッカーボールに心がないことを、コガメもカエルも知りません。

そこに車が来て、ボールを ぽんとはねました。

サッカーボールが、コガメとカエルのほうにころがってきました。  
キレイだったボールは、いまでは黒くなり、空気が抜けて ふに  
やふにやになっています。

人間のこどもが、そのボールを見て言いました。

「あーあ。ぼくのボール、もう使えないよ。

そうだ！ これはもういらないから、新しいの買ってもらおう」

そして、ボールをひろって、行ってしまいました。

コガメとカエルは、しずかにそれを見送りました。

こどもの言葉も、悲しいものでしたが、

泣くことも、

車をよけることも、

こどもに悲しみを伝えることもできない、

そんなサッカーボールを見て、気づいたのです。

「かなしいね」

コガメは、池へとかえりながら、ぽつりと言いました。

「かなしいな」

カエルは、はねることを やめて、コガメの横を歩きました。

フナのおじさんの言いたかったことが、分かったような気がしました。

それから、何日かが過ぎました。

コイのおばさんが、コガメとカエルに聞きました。

「夢は ある？」

コガメとカエルは、元気よく答えました。

「大きくなったら 藻<sup>も</sup>になるの」

「藻 に？」

コイのおばさんは、目を丸くしました。

「藻になって ふわふわするの」

コガメが、楽しそうに言いました。

「池の中を ふわふわするの」



カエルも、楽しそうに言いました。

コイのおばさんは、困ったように言いました。

「でも お魚に食べられてしまうわよ?」

やっぱり困った顔をした、コイのおばさんの言葉に、コガメとカエルはかんがえました。

「それじゃあ 大きくなったら……」

ある晴れた、のどかな日。

コガメとカエルは、かんがえます。

あれもいいね。

これもいいね。

なんだってなれるんだ。と、コガメとカエルの夢は、大きく大きくふくらみました。

（後書き）

読んで下さって、大変ありがとうございました。  
今日より明日の精神で、執筆向上を願いながら、今後も精進していきます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8048d/>

---

コガメ と カエル

2010年10月10日11時00分発行